



変わっていくことと、 変えてはならないこと

5月大教会教会長会議

立教186年5月22日

大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R230525-0528-15
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ 午前6時00分
夕づとめ 午後7時00分

本島大教会では1月21日の本部巡教に続いて、2月から5月にかけて全教会一斉巡教を実施させて頂き、残すところあと数カ所となりました。おちばの声に沿って受講させて頂いた一斉巡教ですが、大切なことはこれから教会として、ようぼくとして何を心定め、実行していくのかということです。ご存命の教祖の御用に努める。その気持ちを皆が持てるように、これからお互いに励まし合いながら進めていきたいと考えています。

さて、時代によって常識が変わることがあります。たとえば長老の先生がまだお若い時代は、電話は集落に一回線だけというのを経験されているかもしれません。それが経済発展とともに一家一台となり、今では携帯電話を一人一台持つのが常識になっています。また、「転んで膝をすりむいたらど

うされますか」との問いに、私の子ども時代だったら赤チンを塗る、今ではマキロンと答えるかもしれません。ある役員は「お母さんの唾」と言われました。これには驚きました。きつと昔はそのように、転んだときはお母さんが唾をつけてくれる。これが常識だったと思います。それが赤チンになったり、絆創膏になったり、傷口を乾燥させるスプレーになったり、傷の応急手当の方法も時代によってどんどん変わってきました。

私が鼓笛隊の隊員だった時代、練習中はなるべく水分を摂らないように、という指導がありました。今は、どんどん水分を摂りなさいと、真反対になっていることもあります。

お道を通る上での常識も、時代の変化にともなって変わっていくことがあるのは自然なことだと思います。そこで正しく変わっていくためには、変えてはならないことをきちんと捉えておく必要があります。

例えば、親神様、教祖から私たちが頂戴している親心、陽気ぐらしという目的地、これらは時代の常識が変わっても、決して変わらないことでしょう。

変えてはならないこと、変わって



いくのが自然なことをきちんと仕分けして、いろいろな判断をしていくことが大事だと思う次第です。

これから教祖140年祭に向かって、いろいろな活動が行われたり、おたすけの現場をお与え頂くことになると思います。変わらぬ親心に確信をもって、心は柔らかく、日々勇んで明るく通らせて頂きたい。励まし合いながら通らせて頂きたいと思っています。

(文責・本島通信編集室)

「はい」と素直に言える ようぼくになろう

大教会准役員 雲庵春彦
くもい はるひこ

只今は大教会長様を芯に、大教会5月月次祭を滞りなく勤め終えさせて頂きました。有難うございました。私は立教181年3月に教会長任命の理のお許しを頂き、本九分教会6代会長の任を預かり5年の歳月が経ちました。

このたびは神殿講話の御命を頂きましたので、若輩者ではございます



が、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、只今は教祖140年祭に向かう三年千日歩み出しの旬でございます。私は、我が家の信仰の元一日である雲庵シカの信仰に学び、この三年千日を通して頂きたいと思えます上から、まず雲庵シカのお話をさせて頂きます。

雲庵シカは大正7年、33歳のとき、産後の思いから結核となり、医者には再起不能と言われました。

その時、天理教布教師の八田留吉氏と出会い、次のように諭されました。「あなたは幼少の頃より『はい』と返事したことがありますか。『はい』という心がないから、肺を患い、他人はもちろん家族にまで嫌われ、家庭にいなから牛馬同様に隔離され、別宅別鍋で日々の世話を家族と別にさ

れねばなりませんまい。人間死ねば灰にされ、あなたの一切のものが灰にならねばなりませんまい」。

シカはこの諭しに感銘を受け、これまででの一切の性格を入れ替え、神様に死ぬまで「はい」と素直に通る心定めをしたところ、一週間後には不治と言われた病が薄紙をはぐように御守護頂くこととなりました。

この雲庵シカの心定めを、本九分教会の信仰の始まりと思案いたしますと、自分も同じように「はい」と素直に通るようぼくになつていられるるか、そもそもようぼくとはどのように通らせて頂くのが良いのか、教祖はどのように仰せられているのか、原典を通して今一度学ばせて頂きたいと思いました。

おふでさきには、
だんくくとふてにしらしてあるほどに はやく心にさとりとるよふ
(四号22)

とあります。教祖は、親神様の思召を筆に知らすと仰せられています。これはただ単に親神様の思召を忘れないようにというだけでなく、教えを親しみやすく、理解しやすいようにとの親心から、たとえなどを用

いて書き留めておくということだと
思います。

その中で教祖は、おふでさき第三号にて初めて「ようぼく」という表現を用いておられます。

だんくくとをふくよせたるこのたちき よふぼくになるものハないぞや
(三号49)
よふぼくも一寸の事でハないほどをふくよふきがほしい事から
(三号130)

親神様は陽気ぐらし世界建設のため、その役割を担う人材をようぼくと表現なされ、そのようぼくも多く寄せてはあるが、その中に神の用向きとなるものはなかなか居ない。けれどもたくさんのようぼくが欲しいと仰せられ、

いま、でハ高い山やとゆうたとてよふぼくみへた事ハなけれど
(三号140)
このたびハたにそにてハ一寸したる 木いがたあふりみえてあるなり
(七号16)

この木いもめまつをまつわゆハんでな いかなる木いも月日をもわく
(七号21)
と仰せられ、高山や谷底など、立場や性別、徳分に関係なく、どんな人

でも親神様のようぼく、つまり必要な人材であることを仰せられています。さらには

にちくによふほくにてわていりする どこがあしきとさらにをもうな (三号131)
をなじきもたんくいていりするもあり そのまゝこかすきもあるなり (三号132)
このきもたんく月日でいりしてつくりあけたらくにはしりや (七号17)

と仰せられています。

親神様は神の用向きをする人間を育てるために身上、事情やさまざまな事柄を通して成人を促しておられ、その育てに応えたものは国の柱ともなる人材に育つと解釈できます。また、

このきも一ゑだしかとついでならあとなるハみなはやくさだまる (十二号17)
よふぎでもにんわたれともゆハねども もとハ壹ほんゑだわハほん (十二号15)
よふ木でも一寸の事でハないからに五十六十の人かすがほし (七号23)
このにんもいつくまででもへらんよ

ふまつだいつききれめなきよふ (七号24)

と仰せられ、一人の人間がしつかりと親神様の思召しを理解し、心に治めることができたなら、それより後、教えを心に治めるものが順々に現れ、親神様の思惑としてはその人数が五十〜六十は必要である。さらにはようぼくの数が減ることのないよう、陽気ぐらし世界へ向けての裾野が広がることをお示しくださっています。

次にみかぐらうたでは、直接ようぼくという言葉は出てきませんが、おふでさき同様「き」という言葉で表されています。

ひろいせかいやくになかにいしもたちきもないかいな (八下目一ツ)

と示され、世界中の人々の中に親神様がお望みの陽気ぐらし世界建設のようぼくになる人物を探し求めておられ、

やまのなかへといりこんでいしもたちきもみておいた (八下目八ツ)

どのような場所であっても親神様が先回りをなされ、陽気ぐらし世界建

設の用材となるべくようぼくとなるもの見定めをなされ、このきぎらうかあのいしとおもへどかみのむねしだい (八下目九ツ)

人間の陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召しを実現するため、常に親神様の用向きを形に表すことが出来る人材を模索しておられることが伺えます。

親神様は常に人間の陽気ぐらしを お望みくださっていて、それは子供が幸せに暮らしている様を見て満足する親の姿、親心であり、親神様は誠に人間の親であると思います。

おふでさき、みかぐらうたで仰せられるようぼくの通り方とは、親神様の思召を思案するものであり、親神様の親心を感じられるものであり、またこれより先も陽気ぐらしの用材であるようぼくを見出し、育て、ともにようぼくへの歩みを進める人材を親神様は求めてやまないのだと思われました。

さて私は25年前、教祖ご誕生20年の年に布教の家石川寮へ入寮いたしました。

初めに寮長は「君たちは道を求めてここにきてくれたと思います。立

場も年齢も違う君たちが、求道者としてこの地に集い、これより一年間を共に暮らすことは、親神様のお導きであり親心だと思えます。その親心にお応えする道は、やはりにをいがけ・おたすけにあります。君たちはここにきて日も浅く、右も左も分からない人中、にをいがけしたことが、おちばで教祖ご誕生20年の祭典が行われます。一人でも多くの人に声をかけさせてもらって、君たちの中で一人でもいいからおちばへ帰らせて頂く人ができたら、寮生全員でおちばがえりしなさい。」と言われました。

入寮したてで不安ばかりでしたが、全員素直に「はい」と受け、寮生のにをいがけの日々が始まりました。

わずか2週間しか時間が残されていない中、皆で声をかけてまわったところ、おちばがえりしてくださる方を一人御守護頂き、寮生全員で教祖ご誕生20年を親里でお祝いさせて頂くことができました。

この御守護は、初めの寮長の言葉に寮生全員が素直に「はい」と言えたこと、さらに寮長の親心にあると思えました。

雲庵シカの「はい」と通る心定め、

布教の家での「はい」と通る心を学び、そして今は本九分教会6代会長として「はい」と通る素直な心をもって、教祖140年祭三年千日を通らせて頂きたいと心に誓うところであります。

おさしづに、

「年限々々どれだけ年限という。年限の経つたものでなけりやよぶべくには使われようまい。年限の経たぬものはよぶべくにはならん。年限の経つたもの程強いものは無い。よぶべくと言えば普請何ぼどれだけ綺麗なと言つても、若いもの細いものでは持たぬ。年限経つたものなら何ぼう節が有つても歪んだものでもこたえる。重りがこたえやで、重りがこたえやで。そんなら細いものは間に合わぬという。年限経てば年限相応だけ間に立つ。年限の古いよぶべくでは揃わん。後々足らぬ処は年限待つより外はない。年限経つたならこそよぶべくという。よぶべくは何程焦らつてもいかん。(中略)世界には新しい道が千筋も出来て来た。どんなよぶべく出来るやら分からん。あちらの国からよぶべく、こちらの国からもよぶべく、高い山にも山の背腹にも谷底にもある、低い

所から引き出すには引き出し難い。高い所から引き出せば早い。高い所のよぶべくはするくくと下りて来る。どんなよぶべく寄せてどんな仕事するやら分からん。」

(明治28・10・7)

その意味は、「よぶべく」というものは、いわば陽気ふしんのように、(用材)であつて一番大事なのは、年限ということでありませぬ。年限経つたものでなければ、普請の用材として間に合わないでしょう。年限を経たものにして、はじめて強いよぶべくとして用いられるのであります。見かけは、いかに美しくできた普請であつても、そこで使われているよぶべくが細いもの、細い用材であつたならば、長く持ちこたえることはできないでしょう。これに対し年限経つたものは、節があつたり、ゆがんだりして体裁がよくなくても、充分持ちこたえる力を持つています。年限経た重さが支える力なので、そうすると、細いもので役に立たないかといえはそうでなく、年限を経たならば、その年限相応に役立つものになるのであります。ところが、このように年限経つたよぶべくは、一朝一夕に揃えることはむつか

しい。揃わない時には、年限を待つているほかないでしょう。年限を自然に経たものでこそ、立派なよぶべくといえます。だから、本当に役立つよぶべくというものは、人間思案からいかにどうしようとして

もできてくるものではありません。」

(中略)「今や世界へ幾筋もの新しい道がのびていつています。その道から、どんなよぶべくが出てくるかわかりませぬ。あちらの国にも、こちらの国にもよぶべくがいます。また高い所にも、谷底にもいるのであります。このよぶべくを引き出すについて、たとえば、低い所から用材を引き出すには、引き出しにくいが高い所の用材はするするとおりにくから容易に引き出すことができませぬ。ともかくどんなよぶべくをどこから引き出すにしても、それは神が引き寄せるのであります。このように多くのよぶべくを引き寄せて、どんな大きな仕事をするかわかりませぬ。」

と、よぶべくは年限とともに成人し、大きな仕事、陽気ぐらし建設を進めていくことを教えられます。

この三年千日はよぶべくが成人するまたとない機会です。

成人への道とは何か。それは親神様の思召しが深く分かる人間を目指す道だと私は思案いたします。

真柱様は論達において

「よぶべくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけ、心を心がけよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願ひ、病む者にはおさしづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。」と仰せられています。

この三年千日、通りきれば教祖五十年のひながたを通つたと同等に受け取つて下さいます。陽気ぐらし世界建設の用材としてのよぶべくが私達であります。そうであるならば、親神様の御守護、教祖の御導き、そして大教会長様の親の声を頼りに、本島大教会につながるよぶべく、その中でも私たち教会をお預かりしております教会長を中心に、お互いに通らせて頂きたいと思ひます。

私は雲庵シカが心を定めた「はい」という言葉をいつでも素直に言えるようになりたいと思ひます。

ご清聴ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

五月月次祭 祭典役割

五月月次祭祭文

立教百八十六年五月二十二日

献饗長 岩橋竜造
伝 供 平井真治郎・篠原不王・吉田晴雄・大上道徳・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・横関茂治・長尾海和・長濱充憲・岩橋守行・山下英久・鎌田典夫・
 岩橋秀一・宮路和徳・位下道治・肥後章・滑川善久・古井信・香川勝巳・川村吉夫・大矢万三
雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・片山秀明・上山薫・伊東賢太郎・鎌田康典・伊東慎平・白垣俊生(順不同)

祭主 指図方	大教会長	座りづとめ	片山 勲	てをどり前半	向所隆文
	井上 哲		西 山道教		賛者
地 方	牧野道昭	てをどり後半	永島宗行	伊東康成	長濱充憲
	大西 知		大上道徳		岩橋守行
てをどり	大教会長	てをどり	岩橋竜造	篠原不王	雲庵春彦
	片山 勲		向所隆文		長尾海和
てをどり	西山道教	てをどり	原口 実	原口和子	横関明美
	会長夫人		吉田要子		梅木澄代
てをどり	片山やすゑ	てをどり	高垣洋子	高島栄造	大矢万三
	長尾澄子		長尾善絵		吉田知彦
てをどり	井上 哲	てをどり	高島栄造	宮路和徳	時久英次
	雲庵道延		吉田晴雄		溝口晋太郎
てをどり	岩橋慶三	てをどり	横山富明	位下道治	加藤道代
	寺本教生		奥村龍夫		菅岡和美
てをどり	老木邦光	てをどり	茶屋原良昭	菅岡和美	菅岡和美
	窪田靖明		片山直明		菅岡和美
てをどり	片山 榮	てをどり	向所暉美子	菅岡和美	菅岡和美
	片山孝代		雲庵まち子		菅岡和美
てをどり	池田さわみ	てをどり	伊東晴美	菅岡和美	菅岡和美
	雲庵春彦		伊東晴美		菅岡和美

このの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には一れつ子供の陽気ぐらしをお待ち望み下さいます深い親心と尽きせぬ御守護のまにまに幾重の道すがら成人の歩み恙なく日々結構にお連れ通り下さいます限りない御慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は常に御恩報じを念じつつたすけ一条の御用に努めさせて頂いておりますが今日の吉き日は当大教会の月毎の御祭を勤めさせて頂く日柄に当りますので只今から役目に与る奉仕者一同心を揃えて陽気に勇んで座りづとめてをどりを勤めて五月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には今日一日を楽しみに因国々所々から帰らせて頂きました本島につながる道の子供達が慶びと感謝の心も深く日頃賜わる御恵みに御礼申し上げ尚も変らぬ親心にお継りする真実の状をもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいませようお願い申し上げます

尚教祖百四十年祭に向けて真柱様よりご発布下さいました「諭達第四号」の精神と教祖年祭活動の意義についておぢばのお声のもとに全教会に徹底すべく「全教会一斉巡教」を去る二月より実施させて頂き今月を以て終了させて頂きます。どうか最後までお連れ通り下さいますようお願い申し上げます

私共は教祖百四十年祭に向う「方針と目標」を定めさせて頂きようばく信者一同が一人残らずこの旬に教祖にお喜び頂けるよう三年千日を仕

切つて定めた目標に向かつて明るく澄み切った心で歩ませて頂く決意でございます

更におぢばではこの月二十六日の月次祭より再来年七月月次祭までの三年間「教会長登殿参列」をお許し下さり本島部内教会はこの間十回に亘つて登殿参列をお許し頂いておりますのでそれぞれの教会を代表する教会長は尊いおぢばの理を頂戴して年祭活動の一層の励みとさせて頂く所存でございます

又青年会本島分会では来る六月二日より二十三日にかけて「おやさことふしん青年会ひのきしん隊」に入隊させて頂きますこのひのきしんには一日でも入隊させて頂くことが出来ますので一人でも多くの隊員が勇み心でおぢばに伏せ込ませて頂けるよう声掛けの丹精に努めさせて頂きたいと存じます

更に六月二十四日土曜日には「三年千日おぢば伏せ込みひのきしん」として市内の「大裏地区田植えひのきしん」を本島の新しい取り組みとして参加させて頂きます

私共一同はこの時旬におぢばにしつかりと心をつなぎ真実の限りを伏せ込ませて頂いて年祭活動に相応しい歩みを進めさせて頂く決意でございます

何卒親神様にはこの心をお受け取り下さいまして一段と自由の御守護を賜り世界一列が互いに立て合いたすけ合う陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

教会長登殿参列始まる(第1回目15名参列)

教祖140年祭教会長登殿参列が立教186年5月月次祭から始まり、第1回目は本島より15名の教会長が参列しました。

これは教会の童頭たる教会長が、かぐらづとめを拝して教祖年祭活動三年千日を勇んで歩んで欲しいとのご本部の親心から。本島大教会には3年間で10回の割当月と人数が決まっています、登殿参列係では原則1月1日生まれ教会長から誕生日順に割当を決めています。



登殿参列 出発前のようす

第1回目の15名は、西礼拝場中央付近の最前列から3列

に案内されて着座し、間近にかぐらづとめを拝し、みかくらうたを真剣に唱和しました。

祭典後、教祖殿御用場にて中田善亮表統領よりご挨拶を頂き、表統領は「かぐらづとめの理を教会に持ち帰り、おちばの理と教会の理は息一つとなるよう、三年千日の年祭活動は普段より集中して御用にお勤め頂きたい」と述べられました。

5月26日登殿参列の記録

タイムスケジュール

7時30分、詰所写真の間に教服用して集合。大教会長よりご挨拶。係より諸説明
7時40分、詰所からマイクロバスに乗車して出発
8時00分、本部西境内地の登殿参列玄関より入場
8時20分、結果内着座
8時55分、奏楽
9時10分、真柱様、つとめ人衆入場。大亮様、親神様礼拝。祭文奏上

9時25分、かぐらづとめ

9時55分、てをどり前半

10時35分、てをどり後半

11時05分、神殿講話(松田理治本部長)

11時35分、大亮様、親神様礼拝。つとめ人衆退場

11時50分、教祖殿御用場着座

11時55分、教祖、祖霊様礼拝、表統領あいさつ

12時10分、第三御用場にておさがり頂く

12時50分、詰所写真の間に帰着。解散

青年会GWひのきしん

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では5月4日と5日、本島詰所において『GWプチひのきしん隊』を実施。青年会員9名が参加しました。当日は晴天に恵まれ、夏のような暑さの中、詰所の窓拭き、布団干しなどを行いました。また2日目は青年会本部が提唱している「問いと対話」を行い、信仰について語り合い、有意義な時間となりました。

実際に参列してみても気づいた注意事項

- ◆詰所出発前に手洗いを済ませておきましょう。
- ◆本部では直属教会ごとの団体行動となります。結果内に着座後もお手洗いにいきますので、移動中のトイレ利用はやめましょう(団体の移動が止まります)
- ◆夏は水分補給、冬は防寒対策に気をつけましょう。
- ◆手荷物を持って行くことはできません。かばん、携帯電話、扇子などは持って行けません。ハンカチを持って行くことをお勧めします。
- ◆履物は詰所で用意します。自分の履物でもかまいません。登殿参列の玄関では直属ごにまもって履物を棚にしまします。
- ◆終了後、第三御用場でおさがりを頂いて、乗降場のバスに乗車するまでの移動中に団体からはくれない場合があります。もし乗降場に置いて本島バスが見つからない場合は、乗降場事務所まで電話を借りて本島詰所にご連絡ください。詰所よりバス運転手に電話で確認をとります。

本勇分教会ひのきしん

本勇分教会(井上哲会長、香川県三豊市)では、教祖140年祭に向かう大教会成人目標にのって「みんなで楽しくひのきしん」を掲げ、第1回目は5月3日と4日、快晴のもと、西境内地の除草と清掃を行い、ひのきしんの喜びを味わいました。また西泉水前広場では、少年会本部による「ピッキーひのきしん」が催され、ゲームや金魚釣など少年会員も大喜びでした。参加者10名(うち少年会員2名)



青年会本島分会

事情はいつ

立教186年5月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教186年4月分)

倉峰 田尻朱美
大隅聖峰 伊藤弓笑

【計2名】

修養科第981期修了

(立教186年5月27日終了)

本恵 今井初音

【計1名】

教人登録

(立教186年4月分)

本島 横関明美
霊峰 宮路喜大

【計2名】

をびや許し

(立教186年4月分)

本米浜 鈴木麻衣子
本白比 林宙

【計2名】

少年会新隊長

(立教186年5月分)

本新田隊 窪田万里衣

【計1隊】

大教会長動向

▼6月(予定)▲

2日、10日、海外巡教
22日、大教会月次祭執行
24日、大裏地区田植え
修養科門出まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27日、かなめ会

28日、結婚式

30日、本部神殿奉仕当番

以上

ろくぢ会

(立教186年5月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼攝泉分教会 ▼崇徳分教会△高垣みなみ嘉一 ▼本高分教会 ▼本新田△窪田教一 ▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・童次

ご芳志に厚くお礼申し上げます。

統計 (4月1日~30日)

教会名	初席	中席	委のり	修料	教人講習	検定講習
本千賀		1				
本水島		1				
本小倉		1				
本陽山		1				
本倉峰			1			
本栄森	1	1	3			
本隅聖	2	2	1			
本別峰						
合計	3	10	2	0	0	0

布教部報告(5月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字はその年の報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいがけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

にをいがけ名簿提出教会 (5月)					
本太	4	本千治	1	雅峰	3
本倉岡	5	本津	2	南峰	1
本樺	5	本太	1	吉峰	2
本室	5	本萩	1	豪峰	5
本谷	4	本備前	5	倉峰	5
御幸濱	1	本迪	1	栄森	4
本萬代	4	本府中	5	栄東	5
本都	5	本清水	2	霊峰	5
本京	5	本崇徳	5	實峰	4
本護	2	本与島	2	大英	1
本恵	2	本勇	2	文峰	2
本恵明	2	本宣道	5	肥後八	1
本静森	1	本陽山	5	銀峰	2
本日米	2	本肥港	1	鶴峰	2
本米	1	本新田	4	仙峰	5
本千代	5	本九台	2	マリナー	2
本千賀	2	本赤	5		
計 50 教会			453 名		

おさづけ取次報告教会 (5月)					
本島	4	本平濱	4	本九台	1
本太	4	本攝津	2	赤峰	5
本倉岡	5	本攝津	4	本雅	3
本樺	5	本太	1	本吉	2
本室	5	本萩	1	本豪	4
本谷	4	本備前	1	本倉	5
御幸濱	1	本水島	5	雄山	1
本萬代	4	本福	1	本霊	5
本京	5	本安藝	2	本實	2
本護	2	本備前	5	本大	2
本恵	2	本迪	1	本大	1
本恵山	1	本府中	5	本文	2
本恵明	2	本清水	2	本肥	1
本静森	1	本崇徳	5	本銀	2
本日米	2	本与島	2	本鶴	2
本浜	2	本廣	2	本都	1
本米	1	本勇	2	本仙	5
本米浜	1	本陽山	5	本マ	1
本千代	5	本肥港	1	本竹	3
本千恵	2	本新田	1	本ハリ	3
計 60 教会			1,220 名		

5月22日(月)

【香川県丸亀市】

天候	曇後時々雨
最低気温	16.3℃
最高気温	27.3℃
平均気圧	1005.4 hPa
平均湿度	73%
平均風速	2.0 m/s
日照時間	8.8 時間
降水量	2.0 mm

入社祭

立教186年5月の入社祭はありませんでした。



本勇ひのきしん



おおoura
大裏地区田植えひのきしん
↓ 【伏せ込みひのきしん係】

- 三年千日おちば伏せ込みひのきしん**
- 内容：大裏地区田植えひのきしん
 - 日時：6月24日(土)
午前9時～午後4時
 - 送迎：8時30分詰所玄関前より出発
 - 場所：大裏地区(天理市豊田町)
 - 服装：Tシャツ、短パン、サンダル、帽子 ※濡れても汚れてもよい服装
 - 作業内容：苗の手植え等
 - 参加対象：教会長夫婦および希望者
 - 補足：ひのきしんは終日を予定していますが、午前のみ、午後のみ参加も可能です。食事(当日の昼食含む)宿泊の予約は各自で詰所へご連絡をお願いします。
 - 担当者：岡崎八十則・永島宗行

夏季雅楽講習会
【青年会本島分会】

- 期間：7月1日(土)～2日(日)
- 会場：本島詰所
- 内容：経験者は盤渉調
初心者も大歓迎

大教会6月月次祭ライブ中継
【本島通信編集室】

- 対象：6月22日大教会6月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：6月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



立教186年こどもおちばがえり
【少年会本部】

- 期間：7月27日(木)～8月6日(日)
- 留意点：
 - ◇全教会に要項とID、パスワードをお渡ししています。
 - ◇本年のこどもおちばがえりは、インターネットでの申込みとなります。
 - ◇全教会に配布する教会IDで、帰参予定人数とカレー食数の申込みを行ってください。
 - ◇カレー食数には制限があります。
 - ◇行事参加の事前申込みはありません。帰参当日に各会場にて受付を行ってください。
 - ◇夕づとめ後には南参道のライトアップが予定されています。
 - ◇以前のこどもおちばがえりとの変更点がありますので、要項を十分にご確認ください。

青年会「こどもおちばがえり特別隊」
↓ 【青年会本部】

- おやさとふしん青年会ひのきしん隊
- 隊期：約1週間
 - 入隊期間：
 - 第4回：6月9日(金)～15日(木)
 - 第5回：6月16日(金)～23日(金)
 - 第6回：7月3日(月)～8日(土)
 - 第7回：7月10日(月)～15日(土)
 - 第8回：7月17日(月)～22日(土)
 - 第9回：8月7日(月)～12日(土)
 - 第10回：8月14日(月)～19日(土)
 - 入隊御供：2,500円
 - 対象：青年会員またはOB
 - ひのきしん内容：こどもおちばがえりの設営・撤収、大裏農作業、おちば周辺での営繕現場など
 - 注意事項：1週間を通して入隊できる方のみお申し込みください。初日は午前8時に百母屋集合、最終日は午後4時半頃解散
 - お申し込みは青年会本島分会委員長(伊東賢太郎)まで

<https://www.honjima.com/>

↓ は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード

第110回本島団鼓笛隊夏季合宿
↓ 【本島団鼓笛隊】

- 期間：7月26日(水)午後2時集合
7月30日(日)午後3時頃解散
- 会場：本島詰所
- 参加対象：小学1年～高校3年生までの男女
- 内容：前夜祭(29日)、鼓笛お供え演奏・オンパレード出演(30日)、こどもおちばがえり諸行事参加
- 参加費：7,500円(宿泊費・食費含む)
- 携行品：要項をダウンロードしてご確認ください。
- 申込み：参加の連絡は7月10日まで各分隊担当まで
- お問合せ先：鎌田典夫
(TEL 06-6432-1727)

学生生徒修養会 高校の部
↓ 【天理教学生担当委員会】

- 期間：令和5年8月11日～8月15日
- 受講対象：高等学校に在学し、全期間受講できる者(親里管内については天理高校第I部の自宅通学生に限り受講可)
- 募集人員：700名
- 内容：レクチャー、ひのきしん、おてふり、レクリエーションなど
- 集合：8月11日正午(昼食を済ませてからご集合ください)詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- 解散：8月15日午前11時頃(予定)
- 受講御供：10,000円
- 申込期間：5月25日～7月25日
- 申込方法：要項をダウンロードしてご確認ください。
- お問合せ先：雲庵春彦 090-2515-8039、横関茂治 090-1138-1690

6月ひのきしん派遣依頼
【総務部】

- <本部食堂ひのきしん>
- 期間：6月1日～15日
 - 派遣：本浜
- <大教会・食堂ひのきしん>
- 期間：6月21日～22日
 - 派遣：赤峰
- <詰所・食堂ひのきしん>
- 期間：6月25日～26日
 - 派遣教会：本室、本攝